

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #342

イエスの復活と永遠の宣教

40日間にわたるイエスの復活の出現がさらに6回

イエスの7回目の復活の出現、パートII：

イエスは公にペテロを宣教に復帰させる

ヨハネ 20.15-24

=====

15 彼らが食事を終えると、イエスはシモン・ペテロに言われた。」ヨハネの子シモン、あなたはこれらの者たち以上にわたしを愛し続けるのか。」

」はい、主よ」と彼は言いました。」あなたは私があなたを愛していることをご存じです。」

イエスは言いました。」わたしの小羊を養い続けるように、あなたに命じます。」

16 イエスはまた言われた、」ヨハネの子シモン、あなたはいつもわたしを愛しているか」。

彼は答えました。」はい、主よ、私があなたを愛していることはあなたがご存じです。」

イエスはこう言されました。」わたしの羊の世話をし続けなさい。」

17 三度目にイエスは彼に言われた。」ヨハネの子シモン、あなたは、本当に私を愛するか。」

ペテロは、イエスが三度目に」あなたは私を愛していますか」と尋ねられたので傷つきました。彼は言いました、」主よ、あなたはすべてをご存じです。私があなたを愛していることを、あなたはご存じです。」

イエスはこう言いました。」わたしの羊を養い続けなさい。」

18」よくよくあなたに告げます。あなたは若かつた時には、自分で着物を着、自分の行きたい所に行きました。しかし年を取ると、あなたは手を伸ばし、他の人に着物を着せてもらい、行きたい所以外に連れて行かれるでしょう。」

19イエスは、ペテロがどのような死を遂げて神に栄光を帰すかを示すために、こう言われた。

」私はあなたに私に従い続けるように命じます！」

20ペテロは振り向いて、イエスの愛しておられた弟子がついて来るのを見た。この弟子は、夕食のとき、イエスのそばに寄りかかって、」主よ、あなたを裏切るのはだれですか」と言った人であった。21ペテロは彼を見ると、」主よ、彼についてはどうなのですか」と言った。

22イエスは答えて言われた。」わたしが再び来るときまで彼が生きながらえていることをわたし
が望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか。わたしはあなたに命じるが、わたしに従
い続けなさい。」

23そのため、信者たちの間で、この弟子は死がないという噂が広まりました。しかし、イエスは死がないとは言われず、」わたしが再び来るまで彼が生き続けることをわたしが望んだとして
も、それがあなたに何の関係があるのか」と言われただけでした。

24これらのことを見しし、またそれを書き記したのは、この弟子です。私たちは彼の証しが真実であることを知っています。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ湖畔
タイムライン	4月 (39ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第9段階：イエスの復活と永遠の宣教
	イエスの復活と40日間の宣教
	40日間にわたるイエスの復活の6回の出現
タイトル：	奇跡35：イエスの7回目の復活の出現、パートII

この朗読は、イエスがペテロを公に回復、つまり指導者として、あるいは奉仕者として復帰させた様子を描いています。これは前の朗読から派生したものです。イエスとの交わりは私たちの永遠の宝であり、この地上での奉仕よりもはるかに重要です。真の奉仕は、イエスとの親密な交わりから自然に生まれる副産物です。これは、ペテロの回復が彼自身にとっても、私たちにとっても、重要な教訓です。

イエスがペテロに三度問い合わせた「あなたは私を愛していますか」という問いは、イエスの教えによれば、奉仕の核心を突いています。私たちは主への愛の表現として主に仕えます。そうでなければ、私たちの奉仕は無駄になってしまいます。パウロも同じことをコリント人への手紙一章2-4節で詩的に述べています。奉仕とは、人々の必要を第一に考えることではありません。神への愛を動機として、神の前で価値あるものとされるために、奉仕は神への愛によって動機づけられ、行われるべきものなのです。

イエスとペテロは、この3つの質問で愛を表す異なる言葉を使いました。イエスは「あなたは私を愛していますか？」と尋ねました。ペテロはイエスに「愛の愛」を抱いていると答えました。ヨハネによる福音書では、愛を表すこの2つの異なる動詞は同じ意味で使われています。しかし、3度目にイエスが尋ねた際、アガペーではなく「愛の愛」を用いました。ヨハネの福音書は、この3度目の質問がペテロを傷つけたことを明確に述べています。まるでイエスがペテロに「あなたは本当にあなたが言うように私を愛していますか？」と問い合わせているかのようでした。

フィレオとアガペーの意味の違い以上に、これらの問いの鍵は、イエスがそれを三度繰り返したことです。ペテロはイエスを三度否定しました。イエスはペテロに、回復において主への愛を三度表明する機会を与えました。さらに、ペテロのイエスへの愛に対する態度は、木曜日の夜、彼がイエスと共に、そしてイエスのために死ぬほどイエスを愛していると確信を持って宣言したあの時以来、劇的に変化していました。何が変わったのでしょうか。

イエスがペテロに愛しているかどうか尋ねられたとき、使徒ペテロはまず「主よ、あなたはすべてをご存じです」と述べて、答えを限定しました。重要なのは、私たちが神への愛について何を言うかではありません。ペテロがかつてそうであったように、誰でも神を至高の愛で称えることはできます。重要なのは、神が私たちのすべてをご存知であるという事実です。私たちを完全にご存知でありながら、神は私たちを無条件に愛することを選ばれます。

神の私たちへの力強い愛は、私たちに神の愛に、私たち自身の愛で応える力を与えてくれます。それはすべて神の御業です。神は私たちを御存じであり、私たちの愛は常に、神が私たちに対して抱いてきた愛への応答に過ぎないことを御存じです。ペテロは、ペテロの愛が主のような無条件の愛ではなく、応答的な愛であることをイエスが一番よくご存知だと、自分がイエスに知っていたことをイエスに伝えたかったのです。それが私たちの置かれた状況の正直な真実です。

神を愛する能力は神の恵みによるものであり、私たち自身の力によるものではないことを認識することは、神を一貫して愛するための確固たる基盤となります。神が私たちに対して示してくださいさった以前の愛にとどまることが、神を愛する秘訣です。この真理を理解することで、私たちは神の愛を他の人々に伝える資格を得ます。「*私がまずあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい*」という原則は、神と人々への真の、そして一貫した奉仕を可能にする原則です。ペテロはこの真理を学んでいたため、公の場での回復を受ける準備ができていました。

イエスはペテロに、彼がまだ幼かった頃、あるいはイエスとの関係が未熟だった頃は、自主性にあふれ、自立していたと告げました。彼が成熟するにつれ、聖霊は彼の利己心を克服し、聖霊の導きを受けることを学び、ついには主のように聖霊の力によって殉教者として死ぬまでに至るだろうと。キリスト教の伝承によれば、ペテロは十字架につけられた時、逆さまに十字架につけられることを要求しました。なぜなら、自分は主と同じ姿勢で十字架につけられるに値しないからです。

イエスはペテロに、羊たちに御言葉を説くように三度命じました。これはイエスが羊たちを「世話する」方法でした。神の子たちは、説教者から発せられる、私たち自身の考えから生まれたメッセージではなく、主の僕を通してイエスの言葉を聞く必要があります。神とその群れへの愛は、説教者／教師が常にイエスご自身の御言葉を自分の羊たちに伝えることを意味します。

七度目の出現は、ペテロが最初に語った弟子としての生き方の基本原則、「*私に従い続けなさい*」で終わりました。復活後、ペテロはもはや定期的にイエスを見ることはできませんでしたが、イエスの模範と御心に人生のすべてを合わせるという歩みは、聖霊の力によって変わることなく続けられました。目に見えないイエスに従うことは、目に見える肉体を持ったイエスに従うことと同じでした。

イエスとの関係は、規則や宗教、あるいは靈的鍛錬に従うことではありません。イエスの人格、価値観、そして変わらぬ存在の影響を常に受け続けることです。それは、私たちが人生における他のすべての人との関係を築くのと同じように、イエスの目に見えない影響力に生きることです。

「*私に従い続けなさい*」という命令は、プロセスとして与えられました。なぜなら、この基本的な務めから気をそらされてしまうのは非常に簡単だからです。ペテロはこの命令を思い出した直後、振り返ってイエスに尋ねました。「*彼(ヨハネ)はどうですか?*」

イエスはペテロに、ヨハネは重要ではないと言いました。ペテロへのイエスの命令は、他の弟子たちと自分を比べるのではなく、ただイエスに従うことでした。ペテロが気を散らすとすぐに、

イエスは同じ命令を繰り返して彼を再び注意を促しました。このプロセスを絶えず繰り返すこと、つまりイエスに集中し、気を散らされ、そして再びイエスに集中すること、これがクリスチヤン生活の要点です。私たちが成熟するほど、気を散らす時間は短くなりますが、このプロセス自体はこの地上では決して終わることはありません。

この物語は、当時の弟子たちが使徒ヨハネに関するイエスの言葉を誤解したという言及で終わりました。これは、イエスの言葉を誤解することが私たち皆に共通していることを示す一例です。これは初代教会で起こったことであり、今日でも起こっています。私たちはイエスの生涯と言葉を注意深く学び、可能な限り正確に解釈するために、全力を尽くす必要があります。

応用：

使徒ペテロが主を裏切ったように、あなたも私も大きな失敗を経験するでしょう。使徒たちは皆、一度はイエスを裏切ったことがあります。これらの失敗は、私たち皆が徹底的に罪深い性質を持っていることの確かな証拠です。どんなに成長したり知識を得たりしても、私たちの内にある罪深さは変わりません。ですから、私たちは皆、いつかイエスからの回復を必要としているのです。

イエスはペテロを復活させたように、私たち一人一人を愛し、ご自身が私たちのために用意しておられる奉仕の業に復活させてくださいます。私たちは誰も、自分の力や過去の行いに基づいて主に仕えるに値しません。イエスが私たちのために死んで復活されたので、私たちは「主に従い続ける」ことができます。イエスは愛であり、仕えてくださいます。イエスに従うということは、主の名において仕えるという生き方にイエスと共に加わることを意味します。

自分が犯した罪をなかなか許せないことがありますか？イエスがペテロを赦し、立ち直らせたことは、あなたの罪に対するイエスの赦しについて何を物語っているでしょうか？あなたはいつ、その罪を許すのでしょうか？

あなたは、自分が罪深いために奉仕の特権を与えられていないと感じて、奉仕をためらっていますか。ペテロの回復は、そのような気持ちについて何を教えてくれるでしょうか。

今日、イエスの羊に仕えることによって、どのようにイエスを愛することができるでしょうか。